



弥生時代に各地域と交易か ～有明海に面した集落遺跡～

玉名市岱明町の低丘陵上に位置しており、干拓以前は有明海に近かったと考えられます。これまで多くの甕棺墓・支石墓や南海産の貝輪などが発見されてきました。近年の発掘調査によって、竪穴建物跡が集中する生活域がわかり、地域間の交流を示す様々な遺物が出土しています。

■支石墓と貝製腕輪 (市指定史跡・有形文化財)

有力者の墓地か

昭和28年、玉名高校考古学部によって支石墓2基(右写真)が発掘調査され、**墓坑**と甕棺片が検出されました。

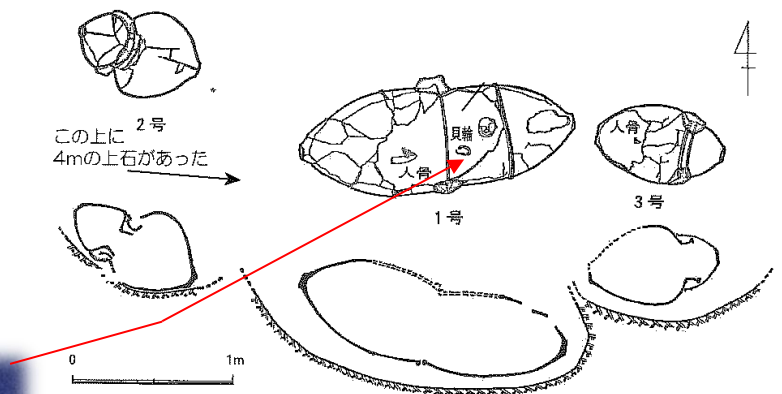
また、昭和43年の農地造成中に緊急調査が実施されています。その結果、右の支石墓付近で、長さ4mの巨石下から大小の甕棺3基が出土し、中央の大型甕棺内から成人男性人骨と共に7点のゴホウラ貝製腕輪が発見されました。



年の神遺跡の支石墓 (市指定史跡)



支石墓下の両脇から出土した小型の壺棺



年の神遺跡の支石墓 (昭和43年調査)



甕棺から出土したゴホウラ貝製腕輪 (市指定有形文化財)

弥生時代の貝輪は、県内では4か所の遺跡しか出土しておらず、甕棺内で7点もあるのは、この年の神遺跡だけなんじゃ！



ゴホウラ貝は奄美大島以南の水深約10mに生息しており、この1点からひとつの貝輪しかできないため、当時は大変貴重でした。

■これまでの発掘調査から

～徐々に明かされる、遺跡の性格～



クロム白雲母^{ほうらんも}という石材です。弥生時代中期の建物から出土していますが、勾玉としては縄文時代後期のものです。

勾玉（長さ 1.5 cm）



各地域との交流の痕跡…



銅矛片（細形銅矛）

甕棺墓群付近から昭和43年に発見されました。



弥生人が食べた貝（マガキ）

▲これまで多くの甕棺、支石墓など墓地は発見されていましたが、居住域が不明確でした。令和4年度の調査で初めて竪穴建物が5～6軒切り合った状態で確認されました。



磨製石剣

甕棺と土坑墓内から切先が各1点ずつ出土しており、戦いが行われていた可能性もあります。



にぬりまげんとき 丹塗磨研土器

北部九州系の須玖Ⅱ式にあたる甕です。赤色顔料が塗られ、祭祀に使用された土器です。



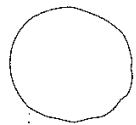
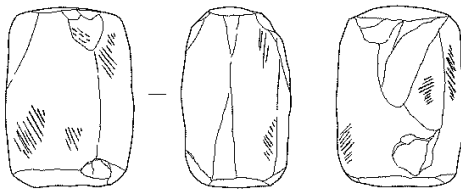
立岩産石包丁と今山産石斧

福岡県飯塚市と、福岡市今山の石材で製作された当時のブランド品で流通範囲を示しています。

■弥生時代に計量されていた？

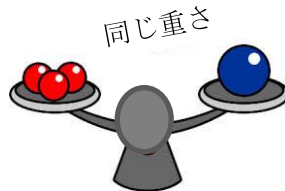
～石のおもり、天秤権～

てんびんけん



年の神遺跡の天秤権

（長さ 5.4 cm ・ 重量 128g）



天秤のイメージ

円柱形で、転ばないようにきれいに面取りがされておるぞ。

県内初の出土！その意義は？

「権」とは計量に使用される分銅のことで、このような石製のものが吉野ヶ里遺跡などで出土し、長崎県原の辻遺跡で銅製の権が出土しています。円柱形の天秤権は、九州でも福岡県の須玖遺跡群など4遺跡ほどしか例がなく、県内では初の発見です。一部欠損しており128gですが、本来の重量で10倍、20倍の倍数に相当する同類の権が発見されれば、年の神遺跡においても計量しなごらの交易が行われていたといえるでしょう。